

## 大学ポートレート運営会議（第1回） 議事録

1. 日 時 平成26年10月1日（水）15:00～17:00

2. 場 所 学術総合センター11階 1112会議室

### 3. 出席者

（委員）

麻生委員、岡本委員、木苗委員、相良委員、鈴木委員、田中委員、西野委員、原田委員、  
日高委員、水戸委員、高田群馬大学長（平野委員代理）

（オブザーバー）

文部科学省：森高等教育企画課長、田中高等教育政策室長、片柳高等教育政策室室長補佐  
（事務局：大学評価・学位授与機構）

野上機構長、武市大学ポートレートセンター長、井田教授、鎌塚評価事業部長、  
小山田大学ポートレートセンター事務室長

（事務局：日本私立学校振興・共済事業団）

谷地私学経営情報センター長

### 4. 議 題

- （1）議長の選任等について
- （2）「大学ポートレート運営会議要項（案）」等の決定について
- （3）「大学ポートレート運営会議の会議の公開について（案）」の決定について
- （4）公表画面について
- （5）大学ポートレートウェブサイトのトップ画面の構築について
- （6）大学ポートレート英語名称について
- （7）その他

- ・ 議長の選出まで事務局で議事進行を行った。
- ・ 委員の互選により、委員長に鈴木委員，副委員長に相良委員が選出された。
- ・ 独立行政法人大学評価・学位授与機構大学ポートレート運営会議要項（案）及び大学ポートレート運営会議に係る実務者協議会要項（案）について、原案のとおり決定された。
- ・ 独立行政法人大学評価・学位授与機構大学ポートレート運営会議の会議の公開について（案）について、原案のとおり決定された。

**【鈴木議長】**

本日は大変お忙しい中、文部科学省からお越しいただいております。初めに、ご挨拶をいただきたいと思います。

**【田中高等教育政策室長】**

失礼いたします。一言挨拶をさせていただきたいと思います。

まず、大学ポートレートにつきましては、平成 21 年ごろから中央教育審議会大学分科会におきまして、特に大学の情報公開ということについてご議論があったところでございます。特に大学のアカウンタビリティという観点から、大学分科会での審議を経まして、平成 23 年 4 月に学校教育法施行規則を改正し、各大学が公表すべき 9 項目の教育情報が法令により明確にされたわけでございます。

各大学のアカウンタビリティの観点から国の法令を改正して、各大学に公表すべき情報を義務づける議論、各大学のアカウンタビリティの観点とは別に、我が国の大学の情報をステークホルダーあるいは海外に発信していくことによって、ステークホルダーに対する情報の提供の充実、あるいは国際的な質保証を推進していくという議論は各大学の情報公開と並行して議論されておりました、大学ポートレートの構造は平成 21 年当時から議論があったわけでございます。

各大学のアカウンタビリティを果たして各大学のホームページで公開していくこととは別に、システムの構築や関係する大学・団体のご協力が必要でございますので、平成 23 年 4 月の学校教育法施行規則改正後も文部科学省における大学における教育情報の活用支援と公表の促進に関する協力者会議や大学ポートレート（仮称）準備委員会において議論

の蓄積を重ねまして、今年度からの情報発信を目指して取り組もうとしている状況にあるわけでございます。

特に昨今、例えば中央教育審議会の高大接続特別部会におきましては、高大接続の観点から、大学入試のあり方にとどまらない新たな高大接続のあり方、大学から高校への情報提供の充実についても議論が行われております。また、平成24年8月の質的転換答申を踏まえて、大学の質保証のあり方についても議論が行われております。

また、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の地域条約におきましても、ナショナル・インフォメーション・センターというものが求められておきまして、そうした大学ポートレートが担う機能、ステークホルダーに対する情報提供、質保証という機能の重要性がますます増しているところです。

そして、大学ポートレートにつきましては、平成21年以来の議論の中でも諸外国の取組を参考にしながら、制度設計がなされてきたわけでございます。米国におきましては、まず、IPEDSという連邦政府のデータベースに基づきまして、College Navigator というシステムが構築されましたが、ステークホルダー等からわかりづらいというような指摘もございまして、州立大学を中心に College Portraits が自主的に構築されたという経緯もございまして、College Portraits におきましては、ステークホルダーへの情報提供の充実という観点から、College Navigator に比べますと、図表等を重視してわかりやすい発信をしていく、あるいはステークホルダーが求める情報をできるだけ発信しようという取組もなされているところでございます。

そのような経緯を踏まえますと、大学ポートレートについては、国、大学評価・学位授与機構、各大学が協力して作っていくもので、スタートの場所が本運営会議であると考えられます。

そのような趣旨をお酌み取りいただきまして、大学ポートレートについては、海外発信を含めまして大学ポートレート（仮称）準備委員会から残された課題もございまして、まずは稼働してから充実させていくことが必要であろうと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【鈴木議長】

ありがとうございました。本運営会議の開催に当たりまして、事務局から大学ポートレートの概要について説明をお願いします。

**【小山田大学ポートレートセンター事務室長】**

資料7「大学ポートレートの概要」をご覧ください。

大学ポートレートはデータベースを用いた大学の教育情報の活用、それから公表のための共通的な仕組みであり、趣旨としましては、大学の多様な教育活動の状況を国内外の様々な方々にわかりやすく発信すること、大学が教育情報の活用により自らの活動状況を把握・分析して、教育の改善に役立てていただくこと、基礎的な情報につままして、共通的に公表し各種調査へ対応し大学の負担軽減を図るといったことがございます。

大学ポートレートの検討経緯としましては、平成23年8月に文部科学省の大学における教育情報の活用支援と公表の促進に関する協力者会議及び中央教育審議会大学分科会におきまして、大学ポートレートの構築について提言がなされ、平成24年2月に大学団体や認証評価機関等からなる大学ポートレート（仮称）準備委員会が発足し、大学ポートレートに関する検討が進められてきたところです。

平成24年11月には大学ポートレートの基本的な考え方や公表項目について審議・とりまとめが行われ、平成26年2月には、国際発信、教育改善のための情報の活用、管理運営等に関して審議・とりまとめが行われました。これらの検討課題については本運営会議に引き継ぎがなされているところです。

大学ポートレートの運営に当たりましては、大学評価・学位授与機構に置かれる大学ポートレート運営会議で運営方針等について審議・決定がなされ、同じく大学評価・学位授与機構に置かれる大学ポートレートセンターが実務を担っていくこととなります。

大学ポートレートで発信する情報の収集、管理につましましては、国公立は当機構のデータベースへの登録により、私立は日本私立学校振興・共済事業団の学校法人基礎調査を通じたデータ提出により、データベースに登録されます。

これら2つのデータベースに蓄積されたデータを社会に公表していくわけですが、利用者はそれぞれのデータベースにアクセスするのではなく、大学ポートレートの国公立共通検索画面を通じて、ワンストップで国公立の情報を閲覧することを可能としているところでございます。

**【鈴木議長】**

教育情報の公表に当たりましては、大学ポートレートの専用のウェブサイトを用意して

公表していくこととなります。それでは、これまで構築が進められてきたウェブサイトの公表画面について説明をお願いします。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

公表画面についてご説明させていただきます。

まず、公表画面の構築につきまして、国公私共通検索画面と国公立の公表画面は当機構が構築し、私立の公表画面は日本私立学校振興・共済事業団が構築してまいりました。それぞれの公表画面では公表項目の見せ方等で差異もございますけれども、両者とも大学ポートレート（仮称）準備委員会での決定を踏まえたものとなっております。

本日は、資料8「公表画面イメージ」として、国公立共通検索画面、国公立の公表画面、私立の公表画面をプリントアウトしたサンプルをご用意しております。

1 ページが国公立共通検索画面です。大学、学部・研究科名、学科・専攻名、課程区分、設置形態、キャンパスの所在地で検索できるようになっております。

検索画面につきましては、国公立共通検索画面のほか、国公立の詳細検索画面と私立の詳細検索画面があり、1 ページの右上にあるオレンジ色の文字のボタンからリンクいたします。例えば、国公立等の詳細検索ボタンをクリックしますと、2 ページにある画面に移ります。

国公立の詳細検索としては、取得可能な学位、編入学の可否、入試区分、学生支援に関する項目等でも検索ができるようになっています。

検索項目を入力して検索を行いますと、4～5 ページの検索結果画面になります。国公立の検索で該当した大学が10 大学ずつ表示されます。また、各大学名の下に「この大学の学部・研究科名等を見る」の文字をクリックしますと、6～8 ページのように、大学の下に、学部・研究科等の名称が表示されます。学部・研究科等の名称の右側にあるオレンジ色のお気に入り登録というボタンをクリックしますと、8 ページ左下にあるお気に入りリストに登録されまして、次回からは検索項目を入力することなく、該当する大学や学部の公表画面をダイレクトに表示させることができます。

9 ページ以降が国公立の大学の基本情報の公表画面、13 ページ以降が学部・研究科単位の公表画面になります。13 ページ上段の青い枠内には、項目選択として9つのボタンがございます。教育研究上の目的と3つの方針から進路までの9つの項目でございまして、ボタンをクリックしますと、それぞれの画面が表示される仕組みとなっております。

本日は資料8として、それぞれの画面のイメージをご用意しています。例えば、23～24ページには、数値のデータに関してグラフ等が掲載されており、視覚的にわかりやすい表示を行うこととしております。また、34～35ページのように、写真や図等の画像データも掲載できるようになっております。

47ページ以降は私立の詳細検索画面と公表画面の資料になります。47ページは私立の詳細検索画面で、目的別検索とフリーワード検索がございます。目的別検索としては、48ページが大学全体での検索画面になります。学校名、学校区分、地域、男女校種、大学の特色、教育活動の取組等で検索ができるようになっています。50ページからは学部・学科単位での検索画面で、先ほどの大学単位での検索項目と共通する項目のほか、学部等の種類、課程区分、昼夜区分、入試区分等で検索できるようになっています。

55ページはフリーワード検索の画面となっております。56ページからが大学全体の公表画面になります。大学名の下に本学の特色から基本情報まで8つのタブがございます。タブをクリックしますと、それぞれ該当の画面に遷移します。

学部・研究科の公表画面については95ページからになります。学部名の下に、学部の特色から基本情報までの9つのタブがあり、タブをクリックすれば該当の画面が表示されます。

検索画面及び公表画面につきましては、既に開発を完了している段階でございます。説明は以上でございますが、日本私立学校振興・共済事業団から補足があればよろしく願いいたします。

#### 【谷地私学経営情報センター長】

47ページをご覧ください。これは私立のトップページになりますが、利用者が使いやすいような工夫をしております。「私立大学・短大について」、「用語辞典」、「サイトの利用方法」の3つございます。

「私立大学・短大について」では、私立全体の状況について利用者に理解されるような情報を載せようと考えています。次が「用語辞典」です。専門用語の理解を助ける機能として用語辞典を設けたいと思っております。最後が「サイトの利用方法」です。以上が日本私立学校振興・共済事業団担当分の特徴というところでございます。

#### 【麻生委員】

国公立共通検索画面と私立の検索画面について、学位にかかわる課程に関してはよいと思いますが、トップ画面にある大学・短大検索の「短大」という言葉に違和感を覚えます。「短大」という呼称は、定着した短期大学の略称であることは間違いありませんし、トップ画面の構成には制約があることも存じておりますが、公式なトップ画面には学校教育法で定められている「短期大学」という用語を使うのがよろしいのではないかと考えます。

**【木苗委員】**

「短大」とすべき特別な理由がないならば、「短期大学」とされるのがよろしいと思います。

**【原田委員】**

賛成です。47 ページもすべてが「短大」となっていますので、かなり修正することになるのではないかと思いますけれども、「短期大学」としてほしいところでございます。

**【鈴木議長】**

そのようなご意見を承っておりますがいかがでしょうか。本運営会議の意見として、表記を「短大」から「短期大学」に改めるということによろしいでしょうか。事務局から、技術的に対応できないというようなことはありますか。

**【小山田大学ポートレートセンター事務室長】**

開発が既に済んでいるという状況もございまして、改修するとなりますと、更に経費を要します。また、改修の規模により改修に期間を要するということとなりますと、大学ポートレートの発信時期が遅れる懸念も出てくるかと思えます。大学ポートレートは改修を行っていくことが前提でございまして、まずはこれで公表を開始し、次の改修の機会に正式名称に置き換えることとしていただければありがたいと考えております。

**【鈴木議長】**

資料8「公表画面イメージ」の1 ページでは、国公立共通検索画面で大学・短大検索とあり、その下の課程区分には短期大学士課程とあり、短大と短期大学という表記が使われています。大学ポートレートは「小さく産んで大きく育てる」の合言葉のもとに改善を

加えていくとしており、その中で、「短大」という表記を「短期大学」に置き換えていくということも可能かと思えます。

**【木苗委員】**

事務局からは時間的なものを含めて考えると言われるのですが、公立大学は四大が 86 校、短期大学が 10 数校ありますので、中途半端なやり方では納得を得られないこともあり得ます。今は開始する大事な時期ですから、このところはしっかりしたほうがよいと思いますが、事務的にはやはり難しいと考えるのでしょうか。

**【小山田大学ポートレートセンター事務室長】**

修正の期間や経費が幾らになるのかについては、開発業者に確認しなければなりませんので、即答できる状況にはございませんが、可能であれば早急に対応したいと思います。

**【鈴木議長】**

委員の皆様のご意見としては、修正に賛成であるということ承っております。既に作業が進んでいるということもございまして、事務局からするとテクニカルな問題もあるかと思えますが、議長といたしましては、最初のところですっきりさせるべきとの本運営会議として意向に賛成いたします。修正にどの程度の期間と費用を要するのかをできるだけ早く確認いただきたいと思えます。できるだけ早く修正することをお願いしますが、先ほど事務局からは修正の中で対応できればという意見もありましたので、対応の方法については委員の皆様のご意向を尊重した上で、議長預かりとさせていただくのではいかがでしょうか。

(「結構です」の声あり)

**【鈴木議長】**

そのようにさせていただきます。事務局と連絡を取りながら対応していきます。

**【水戸委員】**

システムの拡張性の点について、例えば、私立の画面で 53 ページの一番下の「取組」の項目には、アクティブラーニングから生涯学習までありますが、時代が進むにしたがって



「取組」の項目は増えるのではないかと思います。例えば、ナンバリング等の新しい取組が増えた場合のシステムの拡張性について確認させてください。また、通常、ホームページはPC版ですが、最近の高校生はスマートフォンで閲覧しますので、スマートフォン版についての準備があるのかも確認させてください。

#### 【谷地私学経営情報センター長】

日本私立学校振興・共済事業団の中に設置した私学情報推進会議において、教育上の様々な取組を私学の特徴として公表しようということでご議論いただき、46項目に整理しています。いろいろな取組を制限なく公表することになりますと、情報を発信する側も混乱する可能性が高いということで、今は46項目に整理されておりますけれども、時代の流れとともに、見直して増やしていく、あるいは、一般的になった項目は減らしていくことになると考えています。

次に、スマートフォンの対応につきましては、開発の予算の関係もございまして、現時点では対応はできておりません。

#### 【平野委員代理（高田群馬大学長）】

国公立と私立が別々のデータベースを持っているので、表示は異なるはずですが、受験生等のステークホルダーにとっては、比較することができるようになっていたほうがよろしいのではないかと思います。それで、例えば、国公立の画面である13ページには、大学・学部名の下に項目選択があり、教員、学生、キャンパス等のボタンがあります。私立で対応するところとして、56ページの私立の画面では、項目がタブになっており、大学の特色から基本情報までがあります。国立の画面では、ボタンに基本情報がありませんし、国公立と私立とを比べると、国立には入試のボタンがあるのだけれども、私立ではどこでそれを見るのだろうかという感じもします。共通している言葉は、支援、進路、学生、教員、基本情報くらいで、そのほかはそれぞれ独自に構築しているように感じられますので、今後のあり方としては、利用者が混乱しないよう整理する方向に行っていただければよろしいのではないかと思います。

#### 【田中委員】

私は英語版があるとよいと思っております。大学ポートレートの公表画面から各大学の

ウェブサイトへもリンクはされていますが、海外からの留学生が日本の大学を検索する場合には、大学の名前で検索するのではなくて、自分の要望に合う大学を探しますので、大学ポートレートの全ての公表画面に英語版を作る必要はないと思いますけれども、トップ画面や検索画面には英語版、更に言えば中国語版等があり、個々の大学の英語版あるいは各国語版にリンクされるようになると、海外からも探しやすいと思います。

また、後で大学ポートレートの英語名称についての議題がありますけれども、英語名称から英語版のトップ画面にたどり着く仕組みがあれば、留学生が日本に来るときの下調べの方法として非常に有効ではないかと思います。大学としても有益なため検討したいと思っています。

#### 【武市大学ポートレートセンター長】

ここまでのご質問にお答えできる範囲でお答えさせていただきます。

国公立と私立とで表示が異なる件につきましては、これまでの構築の経緯というのがございました。私が理解している範囲では、当初は1つのデータベースで実現しようという議論がなされましたが、設置者の特性もあるということで、国公立共通検索画面により国公立と私立を共通に検索できるよう構築した経緯がございます。したがって、公表する画面についても、全体としてのイメージが国公立と私立とで異なっているところもございます。また、大学間で比較することを前提としておりませんので、現状は、それぞれの特色あるいは特徴を示すことができる公表画面が原則となっているところでございます。これから議論が深められていく中で、共通の表示画面という方向へということは、期待したいと考えているところでございます。

英語版につきましては、大学ポートレート（仮称）準備委員会でも議論がなされ、国際発信については今後の検討になるということでございますので、本運営会議においてご検討いただきたいと考えております。ご指摘のように、各大学で用意されている外国語のホームページへのリンクを張ることも一つのことでございますし、また既にいくつか国際発信のサイトで公表しているところもありますので、そのようなところとの関係も持って、大学ポートレートの中に組み込んでいけるようにしたいと考えているところでございまして、日本私立学校振興・共済事業団ともご相談しながら進めていきたいと考えております。

#### 【麻生委員】

大学ポートレート（仮称）準備委員会ワーキンググループの委員をしておりましたときに、中小の私立の短期大学の意見として、また、4年制大学の団体も同様な意見だったと思いますが、私立には建学の精神やミッションがあり、私立の独自性のよさを表に出していこうということがございまして、ランキングにならずペーパービューのような形で見られるような方向で構築してほしいという意見があり、過去の経緯からこのような形で構築されているものと考えています。

#### 【鈴木議長】

大学ポートレート（仮称）準備委員会では、多様な意見がありまして、例えば、私立にはミッションがあるというようなことで、国公立と私立の間の公表情報の差もあり、まずは始めることが大切だということから、「小さく産んで大きく育てる」との合言葉のとおり、始めてから修正を重ねていくということが言われており、それを念頭に置いて開始することを決めたわけです。そのようなことから、ご指摘のように国公立と私立の間に差が生じているということです。ただ、例えば、国立大学のミッションの再定義ということも勘案いたしますと、国公立で徐々にでも同じ方向に進んでいく、あるいは、本運営会議がそのような方向に全体を進めていくことが必要になってくると思います。

それから、トップ画面を英語でということも、大学ポートレート（仮称）準備委員会でも、何回も出てきたことでもございました。これは、必ず意識して、全体として取組まなければいけないと思います。個々の大学では既にもう取組んでいるところもございますので、そのようなところはそのまま進めてもらえばよいということでもありました。しかし、国際的に発信するという観点からすると、ご指摘のような方向に進まない、大学の国際化が難しいということも、そこで意識されていたことでもあります。

#### 【平野委員代理（高田群馬大学長）】

大学は多様性が大切なので、国公立と私立とでいろいろな形があってもよいと思いますけれども、大学ポートレートは様式に沿って公表するので、例えば、国立ではボタンが教員や学生となっていて、私立はタブが教員情報や学生情報となっている等、同じものなのに違うような表記になっているのではよくないと思いますので、いずれの機会に調整していただければと思います。

**【小山田大学ポートレートセンター事務室長】**

国公立に関しては当機構がシステムを構築してまいりましたので、その点についてご説明をさせていただきますが、大学ポートレート（仮称）準備委員会でのこれまでの資料をつづったブルーのフラットファイルのインデックス 14 をご覧いただければと存じます。

資料 2 「大学ポートレート（仮称）構築のための論点整理」の中の別添 2 として、国公私共通に公表する教育情報がございますが、大学ポートレート（仮称）準備委員会でこちらに掲載されている情報項目を国公私共通で発信していくことがとりまとめられたものでございます。別添 2 の 1 ページが大学単位で公表する情報、2～4 ページが学部・研究科等の単位で公表する情報としてとりまとめられたものでございます。国公立の公表画面にある項目選択のボタンについては、別添 2 の 2～4 ページの情報項目の一番左側の欄に整理されております文言を踏襲して構築を進めさせていただいております。私立につきましては、ボタンの表示が違うところも含めて、私学の独自性を示すということで構築されているのだと思われまふ。ただ、公表される項目については、これらの情報が国公立とも共通で網羅されているということでございます。

**【鈴木議長】**

非常に細かいところではあるのですが、共通の用語あるいは共通の考え方ができるところはあるということで、何度も繰り返して申し上げますように、将来的には、修正を重ねて同じ方向に進んでいくということになっておりますので、ご指摘の点なども、その中で修正していくことが必要になってくると思います。その場合には、大学評価・学位授与機構と日本私立学校振興・共済事業団の共通の理解も必要でしょうし、また、本運営会議がしっかりとした意見を持つべきだと思いますので、ご意見にはしっかりと留意して修正の際に盛り込んでいくようにしたいと思います。

**【原田委員】**

資料 8 の 1 ページに、「国公立等の詳細検索はこちら」、「私立の詳細検索はこちら」とボタンが 2 つあります。その下にチェックする項目があるのですが、これはどのような関係なのでしょう。上にある各詳細検索のボタンが優先して有効になるのでしょうか。それとも、下の項目をチェックして大学名等も入力してから私立の詳細検索ができるのでしょうか。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

検索につきましては、国公私立共通検索画面となる1ページで必要な項目を入力しまして、下にある「選択条件で検索」の欄をクリックしますと、選択した項目に該当する大学が検索され4～5ページで表示されます。一方、国公立の詳細検索をするには、右上の「国公立等の詳細検索はこちら」のボタンをクリックしますと、2～3ページに遷移しまして、国公立についてはこちらで検索をすることが可能となります。

一方、私立の詳細検索に関しましては、「私立の詳細検索はこちら」のボタンをクリックしますと、47ページに遷移しまして、私学の情報を検索できるということで、検索の方法が複数あるということでご理解いただければと思います。

【原田委員】

資料7「大学ポートレートの情報収集公表体制」の図では、私学の場合には私学情報データベースへ移り、そちらでシステムが動くようになっていますが、資料8「公表画面イメージ」の1ページのように、既に国公立も私立も一斉に検索できるようにもなっているのでしょうか。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

そうでございます。

【原田委員】

わかりました。

【鈴木議長】

今のようなご意見は、改良していくというプロセスで非常に重要なことでして、また、委員以外の方々、ステークホルダー・ボードあたりから意見が出てくれば、それを取り上げながら改良していくことになると思います。まずは出発点としてお示しているわけですが、いろいろな意見が出てくれば、修正のための資料として非常に貴重であると考えております。

今の説明に関しましては、そのように取り扱わせていただきたいと思います。大学ポー

ポートレートの公表画面につきましては、大学ポートレート（仮称）準備委員会です承された大学ポートレート（仮称）構築のための論点整理に沿いまして、大学評価・学位授与機構と日本私立学校振興・共済事業団とで分担して構築が進められてきたという経緯がございます。資料8「公表画面イメージ」の構成・デザインとして構築が進められて、大学評価・学位授与機構及び日本私立学校振興・共済事業団とも構築を完了しているところとご報告いただいたところではあります。

続きまして、大学ポートレートウェブサイトのトップ画面の構成についてご議論いただきたいと思っております。各大学の教育情報を公表するページにつきましては、大学ポートレート（仮称）準備委員会の大学ポートレート（仮称）構築のための論点整理に沿って構築がなされておりますが、トップ画面の構成については論点整理には含まれていないため、本日の本運営会議でご議論いただきたいというものであります。事務局から説明をお願いいたします。

#### 【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

資料9-1「大学ポートレートウェブサイトのトップ画面の構築について（案）」と資料9-2「公表画面コンテンツ階層（案）」をご覧ください。大学ポートレートウェブサイトのトップ画面に設けるコンテンツの案でございます。

このようなコンテンツを用意してはいかがかということで、資料9-1「大学ポートレートウェブサイトのトップ画面の構築について（案）」の1枚目で、大学ポートレートの概略として、導入文、沿革、目的、運営体制図、大学ポートレート運営会議について、これらのものを掲載してはいかがかということでございます。3枚目以降に別添としてそれぞれの項目のイメージを用意していますが、あくまでもイメージでございまして、内容については、今後、大学ポートレートセンター等で検討を進めさせていただければと考えています。

次に、ユーザーズガイドは、大学ポートレートの利用者が正しくシステムを活用していただけるようにと、操作方法について、公表項目（定義）について、利用者ガイドライン、これらを用意してはいかがかということでございます。

また、大学一覧や本運営会議を構成する団体をはじめとする高等教育機関等の一覧を想定しております関係機関の一覧、このほか、日本私立学校振興・共済事業団のページにもございますけれども、高等教育に関する用語集、我が国の高等教育の概要、国公立大学

全体のデータの集計値や平均値、設置主体別のデータの集計値や平均値、今後このようなものもデータ分析集として掲載してはどうかと考えています。

2 ページがトップ画面の枠組みでございます。国公立共通検索画面への遷移ボタンのほかに、コンテンツや新着情報等を表示することを考えております。このトップ画面につきましてもイメージでございまして、今後、大学ポートレートセンター等で検討を進めさせていただければと考えております。

資料9-2「公表画面コンテンツ階層（案）」は、コンテンツの階層を整理したものでございます。階層をクリックしていただきますと、その下の階層に遷移する仕組みになってございます。このような構造でコンテンツのページを構築したいと考えています。

本日は、トップ画面に掲載するコンテンツとしてこのようなものでよいか、また、各コンテンツについて掲載すべき事項のご意見を賜りたく、どうぞよろしく願いいたします。

**【原田委員】**

別添1や別添6に「大学（短期大学を含む）」という表現が用いられています。国公立共通検索の画面では「大学・短大」となっており、大学には短期大学が含まれますけれども、どのように表現を整理されていくのでしょうか。どのようにしていくのか方向を明らかにしておかないと、苦勞することになるのではないかなと思います。

それから、別添6の2ページに「大学ポートレートは、大学（短期大学）ごとに」ともあり、これは大学に短期大学を含まないということで括弧書きなのかもしれませんがけれども、括弧書きなどが出てくると整理ができていないという印象を与えることになると思うのです。最初からしっかりと精査されたものが公表されることを望んでおります。

**【小山田大学ポートレートセンター事務室長】**

別添につきましても、イメージとしてご用意したものでございまして、今後、ご意見も踏まえ、内容を検討していきたいと考えております。

**【平野委員代理（高田群馬大学長）】**

最初に大学ポートレートの画面を見たときに、ホテルや中古車の検索等と同じつもりだと思いました。そこで、例えば、ホテルや中古車の検索では、トップ画面から検索画面に遷移するのではなくて、まずは検索画面が表示されるのだと思うのです。ほとんどの人は、

どのような大学があり、どのような大学がどのようなことに取り組んでいるのかというのを知りたいので、検索画面が最初に表示されるようにしてはどうかと思いました。

民間のウェブサイトでは、利用者が最初に見たい画面が最初に表示されるのではないかと思います。それで、大学ポートレートの説明や用語集等は横のほうに小さく書いておいて、それを見たい人がそこへ行くという形かと。ご提案のトップ画面では、ボタンを押さないとどこにも遷移しないので、最初に大学ポートレートのトップ画面が表示されて、そこで立ち止まってしまうと見ていただけなくなるので、もし可能でしたら、検索画面が最初に表示されるのがよろしいのではないかなという印象を持ちました。

#### 【水戸委員】

ホテル検索のウェブサイトの画面もそうですね。最初に、日本の地図の画面が表示されて、コンテンツは周辺に整理してありますね。それともう1つは、利用者別に、例えば、ステークホルダー別に、産業界の方へ、学生・生徒の方へ、保護者の方へ、大学関係者の方へ、というようなタグが付いてくるのだらうと思うのです。

今から修正することは難しいと思いますが、使い勝手という点からは、ワンストップで、最初の画面として検索の画面が表示されて、コンテンツ検索画面の周辺に整理されるといいと思います。

#### 【岡本委員】

実際に利用者が検索するときには、国公立共通検索画面に入ると思います。だから、ホテル等の検索という話が出ましたけれども、お気に入りに登録するなり検索エンジンで検索するなりすれば、しかるべきページへ入るわけですから、便宜は幾らでもできるだらうと思います。

ただ、地図のところに「大学ポートレートとは」等があるのは少し違和感があるので、それはトップ画面で読んでもらうということではないかなと思います。

#### 【水戸委員】

国公立の各大学とも既にホームページは持っているわけです。大学ポートレートは、共通画面、共通サイトと考えたほうがよいと思います。使い勝手をよくしないと利用者に使ってもらえないと思うのです。利用者の立場に立って使い勝手をよくするためにどうし



たらよいかというご提案に対して、検索画面が最初に表示されるようにしてはどうかとの意見を持っています。

**【武市大学ポートレートセンター長】**

ユーザーインターフェースの部分というのは、これ以外にもこれから利用者が増えてくるに従って声が出てくるということは承知しておりまして、民間のサイトはそれなりのノウハウを持った上で利用者からの要望に応じている、それが我々のところでどこまでできるかということに関しましては、難しいという面もあるかもしれませんが、できるだけ大学関係者、あるいは高校生等、一般利用者からも含めて、ご意見を伺いながら改善に努めていくようにしたいと思っております。ここでのご意見も当初から反映させられるものは反映させていきたいと考えております。

**【西野委員】**

日本私立学校振興・共済事業団としては、全国の私立に10月初旬に公表を開始することを約束しておりまして、最初はこの形で開始できればと思います。

**【水戸委員】**

それで結構だと思います。

**【鈴木議長】**

公表を開始することについては、私立が先行しておりまして、10月初旬に公表が始まるということでもありますので、まずは公表を開始して、ご意見は修正の中で対応していくとしたいと思います。

いろいろご意見をいただいておりますけれども、コンテンツやデザイン等につきましては、大学ポートレートセンターにご一任いただき、ご意見は随時取り入れていくようにしたいと思いますので、よろしくご了承をお願いします。

なお、資料9-1及び資料9-2は原案どおりに進めさせていただければと思っておりますが、掲載の内容等につきましては、議長にご一任いただきまして進めさせていただきたいと思っております。よろしゅうございますか。

(「結構です」の声あり)

**【鈴木議長】**

では、そのようにさせていただきます。

続きまして、大学ポートレート の名称について、日本語は「大学ポートレート」で了承されておりますが、英語については引き続き検討することになっておりました。

大学ポートレート英語名称については、僭越ながら議長提案として、資料10「大学ポートレート英語名称について(案)」のとおり、University Portrait Japan としてはいかがと考えておりますが、いかがでしょうか。

**【麻生委員】**

大学ポートレートの総称として University Portrait Japan という提案となったということはよくわかりますが、短期大学のみの学校法人もありますし、短期大学では University を用いないで College を含む名称を用いている場合がありますので、University では違和感を覚えます。高等教育機関を表すものとして適切な表現がないだろうかと思われるところです。

**【原田委員】**

短期大学基準協会は今、310校の会員校があります。そのうちの200校が大学併設で、110校は短期大学のみです。そのため、多くの短期大学が大学ポートレートに参加すると、100校程度は短期大学のみということになりますが、University という言葉では共感を得られないように思われますので、College か College Portrait の使用が難しいとしても、短期大学を含める英語の名称、高等教育でしたら Higher Institute ですとか、先ほどの検索画面では短期大学士課程というように課程で分けたものもありましたが、短期大学が含まれる言葉をご検討いただきたいと思います。

**【平野委員代理(高田群馬大学長)】**

University との関連は、国際的にはどうなのでしょう。

**【武市大学ポートレートセンター長】**

英語名称につきましては、本準備委員会でもご報告させていただいたところがございます。記録としてどこまで残っているかは私も確認はしておりませんが、日本において Portraits という言葉を用いることについて、College Portraits からは決してよい印象は持たれていないということをご報告しております。その理由は、目的が完全に一致しているわけではないということです。College Portraits と大学ポートレートを目指しているところが、必ずしも同じ方向を向いているわけではないと伺っております。

例えば、我が国では大学のコミュニティー全体ですけれども、アメリカでは州立大学をベースとしてボランティアに出てきたものであるとの位置づけもあるので、少々そのような議論が Portraits という言葉自体にございましたが、日本語で大学ポートレートを正式名称とすると決めた以上は、英文で表記したときに University Portrait Japan という形の固有名詞として大学ポートレートを示すのがこの名称の考え方であると理解しております。

先ほどよりご指摘の点も、よい名称があればご議論いただいて決定されることが望ましいと考えています。

#### 【相良委員】

事務局に確認したいのですが、資料8「公表画面イメージ」の1ページの左上に University Info というロゴマークがありますが、これは正式に決まったものですか。

#### 【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

これは仮で置かせていただいているものでございます。ロゴ等については、今後、本運営会議においてご審議いただきたいと考えております。

#### 【水戸委員】

英国にも同様のサイトがあり UNISTAS と云いますがこれは何の略なのでしょうか。

#### 【武市大学ポートレートセンター長】

私の理解では、大学の統計情報を発信するという University と Statistics の造語ではないかと思えます。

**【田中室長】**

オーストラリアは同じようなシステムで、MyUniversity というものを構築しています。オーストラリアは Technical and Further Education (TAFE) という日本で言うと職業訓練施設のような高等教育機関についても一部、MyUniversity に載せているという状況がございます。

ですから、アメリカは College Navigator、College Portraits で College を用いているわけですが、イギリスは UNISTAS、オーストラリアは University をベースに使っているという状況でございます。

**【水戸委員】**

わかりました。

**【鈴木議長】**

先ほどからのご意見を勘案いたしまして、短期大学も含めた名称とするということになれば、College という言葉を入れることになると思います。その場合は、Japan College and University Portraits というような名称になるかとも思いますけども、今の段階でこのように変更することはできますか。

**【小山田大学ポートレートセンター事務室長】**

大学ポートレートウェブサイトの URL を決めなければならないことになっておりまして、既に UP-J でサブドメインを決定しております。英文名称を変えることになると、サブドメインと一致しなくなるという懸念がございます。

**【原田委員】**

女子大学から共学になった大学の場合、大学名から「女子」がなくなってもドメインには Women's 等が残っていて大学名とドメインネームとが一致しないこともあります。名称は変わることがあると思いますから、ドメインに合わせて英語名称をこのまま維持するという必要ではないと思います。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

事務局といたしましては、本運営会議においてサブドメインと英語名称が一致しなくても構わないということをございましたら、そのようにさせていただきたいと思っております。

【鈴木議長】

短期大学という意味を英語の名称の中に入れるならば、どのような案がございますか。

【原田委員】

University and College Portrait Japan で結構だと思います。ただ、英語を母国語とされている方は、College のみでよいのではないかと思われるかもしれません。

【鈴木議長】

ニュアンスの問題もございますね。そうしましたら、ご意見を勘案して、議長の一任として決定させていただくのではいかがでしょうか。

【原田委員】

結構です。

【鈴木議長】

それでは、今後のスケジュールについて説明をお願いしたいと思いますが、今年度中に対応すべき事項として、教育情報の公開の開始がございます。このことも含めまして、事務局から説明をお願いします。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

それでは、資料 11「今後のスケジュール（案）」をご覧ください。国公立につきましては、10月からおおよそ2カ月で教育情報の登録を開始する予定です。一方、私立につきましては、教育情報の入力作業が進んでおりまして、今月から公表を開始する予定です。国公立のデータ入力が整いまして、トップ画面の構築も完了し、公表できる体制になりましたら、12月ないしは1月に国公立全体での公表を開始するように進めさせていただければ

と考えております。

このように、国公立と私立とで公表時期がずれることについて、教育情報の公表については、大学ポートレート（仮称）準備委員会において平成 26 年度中に本格稼働することが決定されているところでございます。また、社会からの大学の教育情報の公表に対する期待は高く、大学ポートレートを通じて早期に公表を開始することも求められているところです。このため、平成 26 年度中に国公立全体での公表を開始することを前提としつつ、公表する環境が整ったところから順次公表するとしてはどうかと考えているところです。

なお、公表の開始日の目処が立ちましたら、あらかじめご連絡をさせていただきたいと考えてございます。

次回の本運営会議につきましては、平成 26 年度末の 2 月から 3 月ごろに開催させていただきたいと考えております。

#### 【鈴木議長】

今後のスケジュールにつきまして説明がございましたが、ご質問はございますか。

#### 【木苗委員】

公立大学協会として、大学ポートレートそのものには賛成であり、一緒に取り組んでいきたいという意向であります。ただ、公立大学は 86 大学ありますが、その 3 分の 2 は平成に入ってから設置された大学でして、これからも増えてまいります。そのうち、特に美術系や看護系の公立大学では、大学全体で学生数が数百人という大学があります。

そのような中で費用の負担が問題になっています。10 月 11 日に公立大学協会の学長会議がありますが、その前に学長が集まる各地区協議会がありまして、6 ブロックに分かれていろいろと議論をしています。私も 2、3 の会場で話をしましたが、設置者が市立や県立であったり、いくつかの事業体が一緒になっていたり、公立大学には様々な設置形態があるものですから、そのような中で費用負担が問題なのです。

大学ポートレートには、大学の質保証も含め大学の情報公開という面で全面的に協力しますけれども、費用負担がどのようにして我々のほうへ来るのか、それは使用料なのか会費なのか、将来的に負担額は減少するのか、ということも含めて多くの意見が出ています。

特に小規模の大学では、前触れもなく高額を求められても払うことはできないという意見もあります。同じく 86 大学ある国立大学と人数を比較すると、公立大学は 4 分の 1 以下

です。先ほども申しましたように小規模の大学もあります。

費用負担をどのようにしていくのかが大きな問題になっていまして、公立大学がそのような状況に置かれているということをお知らせしておきたいと思います。

以上です。

**【森高等教育企画課長】**

今の点につきまして、10月11日の学長会議ではいろいろご説明させていただきたいと思います。特に、大学ポートレートの体制の中で、国公立の情報ウェアハウスについては、国公立大学に維持管理経費等をお願いするというところでございまして、文部科学省よりご相談しているところでございます。大学の規模等に応じてということも考慮して小規模の公立大学が数百万円の費用負担にはならないと思っておりますけれども、大学ポートレートが安定的に運営できるようご相談させていただきたいと思っております。

**【木苗委員】**

ありがとうございます。よろしくお願いします。

**【鈴木議長】**

事務局から、大学ポートレート（仮称）準備委員会において、平成26年度中に本格稼働することが決定されたということ、そしてシステムの整備状況については報告いただきまして、それらを踏まえまして、まず、ただいま報告いただいたとおりのスケジュールで公表を開始したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日の議事は以上でございます。全体を通じて、各委員から何かご発言があればお願い申し上げます。よろしいでしょうか。それでは、以上で本日は閉会とさせていただきます。長時間ありがとうございました。

— 了 —